

みちのく会は東日本大震災により道内に避難している被災者たちの会です。当会は2011年4月23日に会員同士の互助、地元市民とのコミュニティの発生、経済的自立を目指し、様々な取り組みを行っております。

ホームページ : <http://michinokukai.info/>

ブログ : <http://ameblo.jp/coco-kara-hokkaido/>

メールアドレス : office@michinokukai.info

みちのく会

札幌本部の総会・交流会を開催しました



11月30日にみちのく会札幌本部の総会&交流会を開催いたしました。参加いただいた方も委任状やコメントをいただいた方もありがとうございました。遠くからは、恵庭フォーラムでつながった深川の会員さんや、帯広の支援団体さんも来てくださいました。たくさんの食べ物を心をこめて用意してくれたチームOKのみなさん。ダンスを披露してくれた子どもたちとスタッフ、保護者の方たち・多くの皆さんのおかげをもちましてあたたかい交流会を持つことができました。心より感謝です。当日、お礼を言うことができなくてごめんなさい。そしてみちのくkidsや応援団の方、多くの方にささえられて、無事に総会と交流会を行うことができました。ありがとうございました。



■総会議事録

日時: 2013年11月30日(土) 14:00~15:00

場所: 札幌市中央区南8条西2丁目 市民活動プラザ星園
2階大会議室

【参加者】

会長: 本間紀伊子 / 副会長: 小祝美雪、渡邊恭一 / 監査: 森田千恵、吉住真知子 / 旭川支部長: 金谷光英 / そらち支部長: 篠崎龍一 / 函館支部長: 鈴木明広 / 恵庭支部長: 小林靖 / 胆振支部長: 二瓶勇樹 / 会員の皆様: 64世帯(役員含)

【担当】

司会: 小祝美雪 / 議長: 金谷光英 / 議事録担当: 渡邊恭一

【総会の成立について】

委任状: 156世帯 / 参加者: 64世帯 / 連絡がつく世帯: 418世帯 / よって参加者の満場一致があれば過半数を超えるため議題は採決されます。

【報告】

■会計報告(会計: 本間)

みちのく会年次報告書2012-2013 参照。

後日会員の皆様には郵送させていただきます。

■みちのく会新支部設立

函館支部設立、支部長: 鈴木明広 / 恵庭支部設立、支部長:

小林靖 / 胆振支部設立、支部長: 二瓶勇樹

【会則変更】

■みちのく会会則の変更

(役員・会計監査) 第5条 本会に次の役員を置く

(変更前) 会長: 1名 / 副会長: 2名 / 会計: 1名 / 監査: 2名

(変更後) 会長: 1名 / 副会長: 数名 / 会計: 数名 / 監査: 数名

／会計監査(新規追加): 数名 / 追記: 次回の総会まで待たず

に役員承認があれば役員を増員できるものとする。※役員について変更がありましたら会報等でご案内させていただきます。

【新役員紹介】

会長: 本間紀伊子(継続) / 副会長: 小祝美雪(継続)、渡邊恭一(継続)

／監査: 森田千恵(継続)、吉住真知子(継続) / 会計: 熊田麻衣子(新役員)

／会計監査: 藤本昭則(新役員)

【その他(会員の皆様から)】

総会は冬以外がよい(役員で検討) / 会則の内容が薄いのではないかと(今後役員で協議) / 雇用促進住宅の一部有料化(茨木栃木以外の関東)を受け、無料の避難者住宅についての質問と、「住宅の保障は避難の命綱。みちのく会として会員への情報提供をしっかりと行ってほしい」と要望がありました。

■みちのく会新支部発足のお知らせ

2011年4月にみちのく会が発足し、同年11月よりみなさまに支えていただきながら、みちのく会の会長を務めさせていただいております本間紀伊子です。これまでの多大なるご支援、ご協力に厚く御礼申し上げます。

札幌出身である私が震災時に生活をしてきた宮城県より北



会長: 本間紀伊子

海道へ戻ったのは、震災2週間後のことでした。偶然につながったあったかい道の湊さんと、2011年4月9日に北海道に避難されてきた方々へのイベント「ようこそあったかい道」を開催することで、避難されている方々と出逢い「みちのく会」が発足しました。そこから2年8カ月が経ち、道内1500名ほどのネットワークができました。現在も避難されてこられる方、入会登録にいらっしゃる方は、後を絶たない状況です。

会員になられる方には、「みちのく会は何かをしてもらえる会ではなくて、会を利用して皆さんがやりたいと思うことができやすくなるために応援しあう会です。」とお話しています。

そして今後、北海道に定住される方、帰還される方、いろいろな方がいる中で、違う立場ではあっても、震災をきっかけに、出逢った者同士としてあたたかく応援しあっていければと思います。北海道では、避難者に対して、行政も支援団体も一般市民も迅速に動いてくださり、支援の輪がいち早く広がったこと、避難者のために“何かをしてくださる”という方々が大量にくださることに大変感謝しています。同時に、「自立と自助」を会の理念のもと、自分たち当事者は、“何かをしていただく”ことをあたりまえと思うことなく、自分たちの毎日の生活に目を向けていきたいという思いです。組織としては、大変細く、緩やかな会ではありますが、避難者の会としての特質だと思っています。みなさまには、引き続きのご理解、ご協力を賜りますことをよろしく願いいたします。今後とも「みちのく会」を重ねてよろしくお願い申し上げます。

この度、2013年11月30日に開催しましたみちのく会の総会と交流会の場において「みちのく会 新支部三か所」を公式に発表させていただきました。

みちのく会 函館支部 支部長:鈴木 明広(すずき あきひろ)
みちのく会 胆振支部 支部長:二瓶 勇樹(にへい ゆうき)
みちのく会 恵庭支部 支部長:小林 靖(こばやし やすし)
これまでの、旭川支部(金谷光英支部長)・空知支部(篠崎龍一支部長)を合わせると、北海道内で、6か所の地域が拠点となります。

みちのく会 旭川支部より

■事務局とカフェのその後のこと

皆さん、こんにちは。
旧みちカフェ閉業に伴い、その後の針路が分かりづらいとお問い合わせをいただいておりますので、この場をお借りしてご案内申し上げます。
まず旭川支部事務局の所在ですが、引き続きマルカツデパート三階旧カフェスペースをお借りします。賃貸借契約は、支部長の私個人でマルカツ運営会社の「海晃」と締結しましたのでご報告します。常時人がいる形ではありませんが、イベントスペースとして利用可能ですので、支部会員さんは遠慮なく私へ御相談ください。例えば、手づくり品の販売会をお友達と実施したいなど十分検討できます。ただ、支部の運営費、事務局が所在するスペースの水道光熱費は実費で毎月支払いの必要があ



支部長:金谷光英

りますから、会場費として幾ばくか発生しますので、そこはどうかご了解ください。施設面では、ガスの契約を止めましたので利用できませんが、水道と電気は利用可能です。小規模なお話会などにも是非ご活用くださいませ。一方、このスペースを再び飲食店として再起動させる話はまだ途絶えておりません。スペースは、支部事務局機能を保持しつつ、市民とのつながるための場として今でも多くの方から再オープンを待つ声を聞きます。ですが、残念なことです。以前のお店へのご批判も数多く頂戴していることも事実です。また、マルカツからも以前の店名をおろすことを強く勧奨されています。強引だご批判があることは覚悟しますが、「みちカフェ」の名を消すことを決めます。飲食店として再オープンの機会があれば、異なる名前を冠することとなります。どうかご容赦くださいますよう、お願い致します。

ひとつ、言わせて下さい。カフェは、支部が経営できません。税法上は個人事業主です。そして、集いの場として皆が憩える場所でありたい。司法書士や医療関係者との集いの場でもあるべきです。そういうものであったはずですし、これからも挑み続けます。 支部長 金谷光英

みちのく会 そらち支部より

■みちのく会そらち支部の紹介

札幌のみちのく会本部の協力の下、2012年4月28日(土)に開かれた交流会の中で、みちのく会岩見沢支部(現:そらち支部)を発足しました。2013年12月現在で会員数9世帯35名(空知管外移住1世帯含む)です。



支部長:篠崎龍一

不定期の活動としては、新しく会員さんが入る度に自宅兼事務所に招いてのプチお茶会、自給自足勉強会などがあります。また、我々が子供を持つ親として自主避難をしてきた経緯もあり、子供達を対象とした以下のような活動に力を注いでおります。

☆北海道桜組(女子ダンスチーム)

内容:小・中学生の女子を対象としたダンス練習
場所:札幌市厚別区雇用促進住宅桜台管理棟ホール
日時:毎週日曜9時~13時

☆わんぱくネイチャー(子供と遊ぶ会)

内容:3歳~9歳位の子供達を対象とした遊びの時間
場所:札幌市厚別区雇用促進住宅桜台管理棟ホール
日時:毎月第一・第三木曜日の15時~16時50分

その他にも本部と協力して地域の清掃、お祭りの出店参加などで「みちのく会と地域の交流」も図っております。今後は北海道空知地方の広大な大地を活かして「被災地からの保養先、避難者の移住先」を行政、地元企業の協力の下に作っていかうと考えています。

みちのく会そらち支部 〒069-0351 岩見沢市北村砂浜4925 TEL 050-5535-5518

E-MAIL michinokusorachi@gmail.com

みちのく会 函館支部より

■東日本震災から1000日を迎えて1000日過ぎたといっても別段感慨深くない。ただ「光陰矢の如し」である。私共夫婦は、自分の子供達のみならず夫婦揃ってせつかく両親から授かった体を徒に被曝させたくないという共通認識があったので、北海道にスムーズに移住できたの



支部長:鈴木明広

である。私事であるが、2011年5月に当時高校2年の長男を先に避難目的で転校させ、その後私と二男と一緒に同年の9月末に函館に避難してきた。妻は福島市に残って教員として働き、いわゆる「父子避難」という形をとった。幸いにして、今春子供たちは揃って進学できた。また3月に妻も現地で就職できたので、形式的には一家そろって「完全移住」ということになるが、これで「めでたし、めでたし」と目鼻がついた感じはない。移住したが、これから先の人生設計や方向性はまだ不明瞭である。

さて、私は、他の避難者さんと函館市で2012年6月に、福島避難者ネットワーク—函館—を結成して、避難者の声を行政に届けるような運動を展開した。しかし、私達避難者の「窮状」を理解してもらうのは困難きわまりなく、挫折と徒労感にさいなまれる暗澹たる日々であった。しかしこれは地域の人々の原発事故に対する認識と想像力と首長さんの「国策民営」の原発事故にたいしてのスタンスのとりかたに左右されると推察できる。次善の策として、「避難者が自律して活動できるように専念しよう」という意見を集約した。そして、2013年2月に、主なる目的を「子供の健康管理」として、健康観察や医学的なチェックを受けるための費用を函館や道南の市民の「寄付」にたよる「被災者子ども安心基金」を設立した。おかげさまで、今年11月時点で210万の寄付を集めることが出来て恐悦の至りであります。既に今年度分第一回の健康管理支援事業を行うことができ、その結果から次への目標を立てました。事故から1000日経てば事故当事者でない人の記憶は疎くなり、寄付が集まりにくくなるのは悲しいかな現実である。しかし私達避難者が自立して生計を立てていけるようになるまで、なんとかご厚情を賜りたいと思う次第である。私は年齢50を過ぎ避難者の中では、比較的年長者であるので、若い人、とりわけ母子避難をされている母親の「愚痴」の聞き役になることが多い。函館では、避難者が散在している上に、一人一人様々な重い悲劇を抱えているので、なかなか避難者同士で苦しみを分かち合う精神的な余裕がまだ少ない。しかるに、孤独な身で考えすぎて、自分を追い詰めて、孤立の連鎖に陥る母親を救うため必要がある。そのためには、避難者と支援者と行政が自分たちのできる役割を効率的に連携してやっていくシステムを自治体ごとに確立させるべきである。しかし時期はとっくにきているのに、現実的な進展はないので焦燥感が胸が引き裂かれる。北海道に避難している大方は、一刻も早く避難者救済策を施行してほしいと望んでいることに疑う余地はない。

「国策民営」が引き起こした人災の責任の所在は巨大な利益相反の構造の中にあり、解きほぐすのは骨が折れる作業かもしれない。しかし、私は、事故後の政府の対応の稚拙さと非人間的な対応に対する国際的な厳しい世論を鑑みると、それは日本人の社会正義観と倫理的な規範が問われていると思わざるを得ない。私は人道的な見地から、原発利権群がってきた法人ならびに人間と推進してきた政党が責任の所在を明確にし、自主避難というあまりにも非情な行動をとらせたことについて、「反省」し「謝罪」し「補償」という人道的な政策を促進させなければならないと思う。そこで必須なのは。北海道にいる避難者全体の意見としてとりまとめていくことである。そのためには、みちのく会函館支部は札幌本部との連携をとる重要な役割を担うであろうと確信している。

みちのく会 胆振支部より

みちのく会胆振支部支部長の二瓶勇樹です。東日本大震災から2年9ヶ月が経ちました。震災当日から数日は訳も分からずいましたが、日増しに落ち着いてくると、良くも悪くもいろいろと見えてきました。しかし、それでも全く見えなかったのが将来の希望です。放射能という、それまでは全くの人のごとのものが、現実には自分たちに降り掛かり、これからの生活に大きな不安を抱かせました。散々悩んだあげく、ボクは家族で北海道へ移住しようと決断したので。子供たちの将来を考えての決断でした。



支部長:二瓶勇樹

いまは、毎日が充実していますが、一日たりとも福島のことを思わない日はありません。北海道の素晴らしい自然の中で、素敵な人たちに囲まれて暮らす日々は本当に幸せです。しかしその反面、福島に残ることを選択して、いまもなお福島に暮らしている親兄弟、親戚、友達はどうしてるかな?と毎日思い出しています。

これまでは、憎しみや怒りを抱きながら生きていました。しかし、時が経つにつれ、誰かのせいにして生きていても幸せになれないことに気がつきました。逆に心が疲れて、心身共に不健康になることも知りました。福島に残っても福島から離れても、悩み苦しんでいる人は多くいるし、逆に、どこにいても幸せに暮らしている人たちもいます。目の前に起きている現象に囚われず、そこから何を見出せるか?どんな展開ができるか?常にその先の幸せを見据えて、そして、諦めなければ必ず幸せになれると信じられるようになりました。

ボクには大切にしている言葉がいくつかあり、その中の一つに「迷った時こそ愛の選択」というものがあります。人は、選択をする時に自分中心に捉えて選択すると、満足のいく結果を得られないことが多々あります。しかし、苦しければ苦しい時こそ、愛を選択して進むと、沢山の幸せを引寄せられるのです。それをボクは、この北海道で知ることができました。愛を選択するというのは単純に、家族や周りの大切な人のことを想い、それを基準にすれば良いだけのこと。

また、移住してきた当時は、子供たちの将来しか考えられませんでした。いまはその先のことも考えています。子供たちの子供。そのまた子供たち。自分がこの世からいなくなってしまう未来が、未来の人たちが、キラキラと輝くものであるように、いまここに生きるボクたちが輝く人生を歩むべきと想います。たくさん泣いて、それ以上に笑って、心豊かに大らかに、素敵な仲間たちと共に生きたい、そんな胆振支部をみんなで創って生きたいと想います。

みちのく会 恵庭支部より

恵庭支部長を務めさせていただきます、小林と申します。まだ立ち上げたばかりで具体的な活動はこれからになりますので、恵庭支部発足の経緯と、今後の抱負を簡単ですが述べさせていただきます。3.11から2年経ってから支部を立ち上げた発端は、今年8月31日にあったかい道



支部長:小林 靖

主催の『これからフォーラムin恵庭』が開催されたことでした。これまで、みちのく会やその他支援団体が札幌を中心に活動されていたことは知っていたのですが、やや遠い距離感のためなかなか足を運ぶことができず、また参加できても近所の方と知り合うことができなかつたのですが、地元でフォーラムが開催されたことで、みちのく会の恵庭市在の中の方3家族と繋がる事が出来ました。

地元のコミュニティ形成という部分を、札幌本部にお願いするのは申し訳ない、なら自分達がやりたいという意向を会長の本間さんに告げたところ快く了承頂きまして、恵庭支部が立ち上がることになりました。恵庭市には50名ほどの被災者がいるようなのですが、各々が独立して被災者同士で繋がる事ができなかつたため、まずは恵庭市中心のコミュニティを確立したいと考えています。

それともう一点、みちのく会会員向けに、恵庭市の住宅情報の発信をしていきたいと思えます。恵庭市は札幌と千歳の間にあり、快速も停車する立地の良さ、スーパーも車で5分の距離に4,5件あり、ネットスーパーも利用可能です。そして車で5分10分走ると住宅地を抜けて、北海道らしい自然豊かな景色が広がります。農家直売店も複数あり、直売をやっている農家も多く収穫体験などもできます。都会と自然のバランス感が非常に良いので、家族で長く住むには非常に良い土地だと思っています。恵庭市民に限定することはありませんので、もし恵庭情報を交換したい方がおりましたら連絡頂ければ幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

恵庭支部長 小林 靖 電話:050-3553-8884
email:drian@yagikobo.com

第3回あったかい道 起業勉強会のお知らせ

今回は、あったかい道メンバーでもあり、北海道ご当地キャラクター、コアックマ&アックマの運営をしている株式会社

「BeggarSwindle」代表取締役 須川雅史さんと同じく中山法子さんに「ネットショップ開業」についてのお話をいただきます。

■日時:1月17日(金)

18時~19時 お話し/19時~21時 質疑応答・懇親会

■場所:札幌市豊平区月寒西1条7丁目1-11

みちのく会 月寒オフィス TEL:011-826-4098

■会費:懇談会参加費 1000円

※19時~21時 質疑応答・懇親会を同会場で行います。(ソフドリンク、お酒、おつまみ、軽食などを用意しています)

■申込:メールでお願いします。

メール:come@attakaido.com件名:ネットショップ勉強会

申込内容:お名前・所属 定員:30名程度

※1月15(水)18時までにお申し込みください。人数が多い場合は抽選となります。

■主催:あったかい道/■講師プロフィール

須川雅史:株式会社BeggarSwindle 代表取締役

北海道ご当地キャラクター コアックマ&アックマ運営

中山法子:株式会社BeggarSwindle 所属

■コアックマ&アックマ

北海道応援キャラクターとして2008年に誕生。全道179市町村を巡るコアックマキャラバンで地域活性活動を展開。2つの側面を持つ生きたキャラクターとしての世界観展開、グッズ展開を行っている。今回のワークショップでは、趣味の一環を少しのお金に変える1歩、という段階のネットショップ開業についてお話しをしていただきます。

みちのく会手記vol.3 発刊についてお願い

これまで、2012年、2013年3月に発刊した「みちのく会の手記」のvol.3を2014年3月上旬に向けて発刊したいと思います。おってMLなどでご案内しますので、皆様からのご協力をお願いいたします。

みちのく会行事カレンダー

みちのく会のホームページを開いて下記のバナーをクリックするとカレンダーを見ることができます。



みちのく会のお問い合わせ先はこちら

※入会のお申し込みを随時受付しております(会費無料)

※お電話や、お越しの際は、月寒事務所へお願いいたします

■みちのく会 事務所

住所:札幌市中央区南8条西2丁目市民活動プラザ星園201

電話・ファックス:011-206-1522

Eメール:office@michinokukai.info(月寒オフィス共通)

■みちのく会 月寒(つきさむ)事務所

住所:札幌市豊平区月寒西1条7丁目1-11/交通:地下鉄東

豊線 月寒中央駅1番出口から徒歩3分(アンパン道路)

電話・ファックス:011-826-4092